



つくば 3E 宣言 2008

2008 年 6 月 1 日

第 2 回つくば 3E フォーラム会議

2007 年 2 月、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、第 4 次報告書において、地球温暖化が確実に進行しており、その原因は人為的なものであることをほぼ断定した。同年 6 月、わが国はドイツ・ハイリゲンダムサミットにおいて、2050 年までに世界の温室効果ガスの排出を 50%削減するという「クールアース 50」を提案した。さらに、12 月には、インドネシアのバリ島で開催された気候変動枠組み条約 13 回締約国会議（COP13）において、温室効果ガス削減の国別削減量が真剣に討議されるなど、気候変動、地球温暖化問題が国際的に取り組む重要課題として取り上げられた。このような状況の中で、2007 年 12 月、つくば 3E フォーラムの第 1 回会議では、2030 年につくばにおける二酸化炭素排出を 50%削減するとの目標をあえて掲げ、「3E シティーつくばモデル」とも称する全国及び世界の中核都市にも適用できる低炭素社会システムの構築を目指すことを宣言した。

第 1 回会議以降、つくば 3E フォーラムでは、複数のタスクフォースにおいて、科学技術の観点から、要素技術やそのシステム化による温室効果ガス排出量削減の可能性についての議論を重ねてきた。さらに、社会的価値観の転換、環境教育、パートナーシップのあり方についての検討もおこなってきた。2008 年 5 月 31 日、6 月 1 日の両日、筑波大学で開催した第 2 回会議では、産学官民が一堂に会して、上記の課題について論点を整理し、目標達成にむけた具体的なアクションプランの策定について議論を深めたところである。

また、本会議では、地球温暖化、環境問題に先進的に取り組んでいる海外都市から、事業に直接携わる関係者を招聘し、取り組みの歴史や現状、将来の展望等について講演を依頼した。それぞれの取り組み内容と合意形成や施策決定に至ったプロセスなど、つくば 3E フォーラムの今後の活動にとって貴重な情報を得ると同時に、これらの志の高い海外都市との国際連携を推進することが、低炭素化に向けた活動や施策の定着に極めて効果的であるとの認識を深めた。

つくば 3E フォーラムは、会議での議論と合意に基づき、茨城県、つくば市、筑波研究学園都市に関連を持つ大学・研究機関、団体、産業界及び市民が連携して、目標達成にむけたアクションプラン構築のための活動を以下のように推進する。

1. 二酸化炭素排出量の高い削減目標達成のためには、新エネルギー、交通システムなど、省エネルギーや低炭素化に資する技術革新が不可欠である。つくばにはそれぞれについて世界をリードする先進的な技術の蓄積があることから、研究学園都市に関連する大学・公的及び民間研究機関が連携を強め、これらの技術革新を一層推進する。
2. 低炭素社会を実現するには、各種技術を統合的にシステム化して、市民の合意と連帯の中で実証し、実用化に向けて俯瞰的に展開していくことが重要である。そのためには、産学官に加え、市民の主体的関わりが不可欠である。3E フォーラムおよび「つくば環境スタイル計画書」を取りまとめた、つくば市環境都市推進委員会の活動を基盤として、大学、公的、民間研究機

関、産業界、団体、市民、学生、行政のパートナーシップを強化する。

3. 産学官民のパートナーシップのもとで、各種技術の統合、社会システムの開発から実証実験、実用化に至る一連のプロセスを立案、実施する。そして、計画の実行過程にモニタリング、評価、見直しのサイクルを導入した、環境技術や社会システムの実用化と普及プロセスのモデルを確立することで、国内・世界を先導する。
4. 低炭素社会の実現には、技術革新と並行して、省エネルギーのさまざまな取り組み、とりわけ循環型社会の構築やライフスタイルの変革など、社会革命ともいえる価値観の転換が不可欠である。つくば 3E フォーラムでは、未来に軸足をおいた市民生活のありかたを思想、哲学として確立するための研究活動を進め、環境問題の深刻化の中で問われるようになった人間と自然とのあるべき関係を理念として提示する。
5. 循環型社会と低炭素社会の実現に向けて、筑波研究学園都市の知的資源を活用して低炭素意識を涵養する知識と技能を有する環境リーダーを育成するとともに、学校と社会において問題意識を啓発する活動を積極的かつ継続的に進める。また、低炭素社会における健康で文化的な市民生活の実現へ向けて論点を整理し、具体的方策の検討を進める。
6. バイオマスの健全な利活用を行うバイオマスタウン構想の策定に着手する。また、輸送に伴う二酸化炭素排出量の削減と安全安心な食料の確保の観点から、食料自給率の向上と地産地消の拡大を目指す。さらに、遊休状態の土地の効果的利用について、具体的方策の検討を行う。
7. 温暖化対策の取り組みは数十年単位の長期にわたることから、各世代が確実に役割を果たしていくことが重要であり、世代を超えた連携が不可欠である。3E フォーラムでは、主体間の連帯に加えて、世代間の連帯も念頭に置きつつ、つくば市において低炭素社会の実現を目指す。
8. 世界規模の低炭素社会の実現には、内外の地域、都市との連携、連帯を進め、未来への意識と低炭素化社会実現への具体的方法を共有することが重要である。筑波研究学園都市において展開する産学官民のスクラムによる取り組みを「つくばモデル」として国内外、特にアジア諸国に波及させることを目指す。
9. 志の高い世界の各都市は、すでに地球温暖化対策への取り組みを積極的に進めている。つくば 3E フォーラムでは、情報と取り組みの方法を共有し、協働して内外に発信することを目的に、これらの都市との連携を進める。

低炭素で安全・安心の環境・科学技術都市にむけた革新的科学技術開発と普及、環境教育等の取り組みは、上記 9 の都市間の連携など国際的ネットワークを構築しつつ推進していくことが極めて有効である。来たる 6 月 15 日に沖縄で開催される G8 科学技術大臣会合の関連イベントとして開催した本フォーラムの第 2 回会議は、この認識が同会合においても各国科学技術大臣に共有されることとなり、同会合を通じて G8 北海道洞爺湖サミットへ発信されるよう積極的に行動する。